南山っ子通信

長崎南山小学校
学校生活だより
令和３年３月号
担当〔山田〕
NO.98

人を赦す心

最初はふざけ遊びだったのが，いつの間にか本気の喧嘩になってしまう。低学年の子どもたちの世界では決して珍しいことではありません。衝突している二人 → その周りにいた友達の一人が慌てて職員室の先生に知らせに行く → 現場に駆け込んだ先生が二人を引き離して，お互いの言い分を聞いてあげる。 → そして，どうしたらよいかじっくりと考えさせてみる。 → やがて，一方が「ごめんね」と言い，もう一方が「いいよ」と赦してあげる。 → しばらくして，赦してあげた方も「ごめんね」と言い，赦してもらった方も「いいよ」と言って，簡単に仲直りができる。このような場面は，学校生活の中で時々みられます。

これは，小さい低学年の子どもたちだからこそできることであって，中学生や高校生，そして大人の世界ともなると，なかなかそう簡単にはいきません。それまでのいきさつや一度燃え上がってしまった憤り，微妙な人間関係などが障害となって，すぐには相手を赦すことができないのです。

先週の水曜日，卒業ミサが行われました。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため，例年のような全校児童の参加ではなく，声を出して聖歌を歌うこともできませんでした。それでも，２年生と 20 名近くの保護者の皆様にも参列していただいて，静かな雰囲気の中で，卒業する６年生のためにお祈りを捧げることができました。ミサの中で，スタン神父様は，卒業する６年生に次のように話をされました。

スタン神父様から卒業生へ向けた「贈る言葉」だといってもいいかと思います。

聖堂で，また教室で６年間学んできた神様の愛を，これからの人生の中で出会うであろう多くの人たちに是非現していってもらいたいと思います。

神様の愛を示していく上で，最も難しいことは何だと思いますか？それは，赦すということ，自分と敵対関係になってしまった相手を心から赦してあげるということです。これは，ホントに難しいことだと思います。

相手が「ごめんね」と謝ってきたとしても，心を閉じていては赦してあげることはできません。例え「赦す」と口先だけで言ったとしても，それは形だけのことで心から赦してあげたことにはなりません。また，反対に，「ごめんね」と謝る場合も同じです。相手に心を閉じたまま「ごめんね」と言ったとしても，ホントの「ごめんね」にはならないし，ホントの仲直りもできません。心から赦してもらい，心から赦してあげるためには，相手に心を閉じたままではなく，相手に心を開かないといけないのです。

自分の弱さのために，どうしても相手に心を開くことができない場合はどうしたらいいでしょうか。そのときは，神様に心を開くようにしてください。相手を赦してあげる力，赦してもらう力を，神様に助けてもらえるように，心を開いてお願いしてください。

まず，神様に心を開く，そして人にも心を開くことを忘れないようにして，みなさんが赦す心を大切にすることができるように，このミサの中で祈りたいと思います。

卒業する６年生が，小学校生活最後のミサの中で教えられた「赦す心」をいつまでも忘れないようにしてもらいたいと思います。

カエルの話

いたずら好きで好奇心旺盛な男の子が田んぼからカエルをつかまえて帰ってきました。お風呂場の洗面器に水を入れ，カエルを泳がせて遊んでいた男の子は，何を思ったか，お風呂のお湯の中にカエルを入れたらどうなるのだろうかと試してみたくなりました。さっきまで冷たい水の中で気持ちよく泳いでいたカエルは，いきなり４０℃近いお湯の中に入れられて，その熱さにびっくり。思わず湯船から飛び出してしまいました。

その翌日のこと，今度は冷たい水の状態から少しずつお風呂を沸かしていったらどうなるのだろうかと思いついた男の子は，早速カエルを湯船の中に入れてお風呂を沸かし始めました。水の温度は少しずつ上がっていくのに，カエルは変わった様子もなく気持ちよさそうに泳いでいます。やがて，昨日と同じ４０℃近くになっても相変わらず元気に泳いでいます。

しばらくして泳ぎに飽きたカエルは湯船から飛び出そうとしました。ところが，知らず知らずのうちに熱いお湯に体力を奪われていたカエルに湯船から飛び出る力はもう少しも残っていません。疲れ果てたカエルは，とうとう仰向けになったままのびてしまいました。

ある神父様から聞いた「カエルの話」です。

復活祭をきれいな心で迎えるための準備の期間を四旬節といいます。この四旬節中によく唱えられる「十字架の道行の祈り」という祈りがあります。イエスさまが死刑の宣告を受けられてから十字架に付けられて墓に葬られるまでを第１留から第１４留までの１４の場面に分けて，その受難をしのび黙想する祈りです。

「十字架の道行の祈り」の第３留では，重い十字架を引きずって石畳の道を歩かされていたイエスさまが初めてお倒れになる場面を黙想します。この第３留の祈りの中に，次のような箇所があります。

……罪を繰り返すうちにその恐ろしさに鈍くなっているわたしたちが，自分の罪の重さに気づき，神のみ前に身をかがめてゆるしを願うことができますように。

この箇所を唱えると，神父様から聞いた前述の「カエルの話」を思い出すことがあります。

強盗の罪で逮捕されたある男が次のように供述しています。

お金が欲しかったわけではない。ただ止められなかった。……，一番初めは小学１年生の時だった。テーブルの上に置き去りになっていた小銭の中から１０円玉をこっそり取って自分の貯金箱に入れた。悪いことだと分かっていたので罪悪感で心がドキドキした。やがて隠れて母親の財布から小銭を取り出すようになり，それを繰り返すうちに罪悪感は薄らぎ，違ったドキドキ感を楽しむようになっていった。中学生や高校生になってからは学校で友達のものにも手を出すようになり，就職して始めた寮生活でも同僚の部屋に忍び込んで盗みを繰り返した。

〔裏面へ続く〕

♪忘れないで

1．忘れないで
いつもイエスさまは
君のことを　見つめている
だからいつも　絶やさないで
胸の中の　ほほえみを

2．だけどいつか
はげしい嵐が
君のほほえみ
ふきけすでしょう
だからいつも　離さないで
胸の中の　みことばを

3．忘れないで
悲しみの夜は
希望の明日に　変わることを
だからすぐに　取り戻して
いつもの君の　ほほえみを

この男は，逮捕されるような大きな罪をいきなり犯したわけではありません。それまでに何度も何度も小さな罪を繰り返してきたわけです。繰り返すたびに罪に慣れてしまい，少しずつ少しずつ罪悪感が薄らいでいったのです。

この男にとって不幸の始まりは，小学 1 年生の時に誰からも注意されなかったこと，そして，強く叱ってもらわなかったことです。過ちの初期の段階で徹底的に指導してもらっていたら，決してこういった結果にはならなかったことでしょう。

「カエルの話」は，子どもたちの学校生活の中でも考えてみることができます。

教会前の広場や学級園がある中庭では外靴を履く決まりになっています。ところが，上靴のまま遊んでいて注意される一部の子どもたちがいます。教室ではきちんと指導されているのに，軽い気持ちで上靴のまま一度出てしまい，何度かそれを繰り返すうちに，ルールを破っているという意識がなくなってしまっているわけです。

・学校に持ってきてはいけないおもちゃやゲームを持ってきている子
・学園の敷地内で携帯電話を使用している子
・猛スピードで校舎内を走り回っている子
・子どもたちだけで大型商業施設や映画館などに出かけている子
・ゲームセンターに出入りしている子

こういったルール違反も初めは程度が小さかったはずです。また，「悪いことをしているな」という意識もはっきりとあったはずです。ところが，ルール違反を繰り返すうちに「悪いことをしている」という意識は薄らいで常習化してしまうのです。

学校のきまりについては，全校集会や終業式の折に繰り返し話をし，指導しています。特に，初期指導の徹底が重要です。気になる行動を見かけることがありましたら，程度が小さいうちに解決できるように，ご家庭でもご指導ください。

生活習慣の面からはどうでしょうか。

いつも夜の 9 時には寝ている子が，何らかの理由である日 11 時まで起きたとします。いきなり 11 時まで起きたわけですから，その子にとっては大ニュースです。お父さんやお母さんにしても，11 時までも起きている我が子にびっくりして，ひどく注意するに違いありません。

ところが，夜の 11 時ではなく 9 時 5 分だったらどうでしょうか。9 時 5 分が数日続き，それから 9 時 10 分，9 時 15 分と少しずつ少しずつ寝る時刻が遅くなっていったとしたらどうでしょう。寝る時刻が遅くなっていくことを繰り返すうちには，やがて 10 時 30 分を過ぎ，11 時近くにまでになったとしても，もう大ニュースではなくなってしまいます。まして学年が進み，習い事や勉強で忙しくなってきたりすると，あれほど大事にしていた 9 時就寝の躾のことも，それほど大事には思えなくなってしまうかもしれません。

就寝時刻に限らず，部屋の片付けや服装の乱れ，家庭内のあいさつ等々，生活習慣の面で気になる行動が現れだしたら問題が大きくならないうちに早めに指導することが大事であり，ここでも「カエルの話」の教訓は生かされそうです。

今年の復活祭は４月４日，わたしたちは，今，四旬節の真っ直中にいます。四旬節のキーワードの一つに「悔い改め」という言葉があります。自分の罪を悔い改めるばかりでなく，学校生活においても，家庭生活においても改めるべきことはないかどうか，今一度思い返してみるのもいいかと思います。そして，主のご復活を祝うために心も行いもきれいなるようにがんばってもらいたいと思います。

♧♧ 教 室 紹 介 ♧♧

１年１組　担任　小 泉　美佳 先生

顔も知らない，名前も知らない，初めて出会うお友達といっしょにスタートした１年生の４月。わくわく半分，ドキドキ半分。大きな６年生のお兄さんたちやお姉さんたちに教えてもらいながら，そして助けてもらいながら少しずつ学校生活にも慣れてきました。いつの間にか，おしゃべり大好き，外遊び大好き，お絵描き大好きの元気いっぱいの１年生に成長してきました。給食当番や係活動にも進んで取り組めるようになってきています。３学期は，イラスト係，工作係，お笑い係，絵本係，きょうりゅう係，虫係などを自分たちで考えて楽しく活動することができました。

「おいのりをたいせつにする子，はなしをしっかりきく子，ともだちとなかよくする子」を目指して頑張ってきた１年１組の子どもたちです。

「みんなのいいところを見つけ，たすけあってなかよくする」

小泉先生は，平和集会に向けてみんなで考えた平和の誓いにあるように，お友達のいいところをたくさん見つけることのできる２年生になってほしいと願っています。

♧♧ 教 室 紹 介 ♧♧

１年２組　担任　野 上 あゆみ 先生

大きな６年生のお兄さんやお姉さんが大好きな１年２組の子どもたちです。何度も何度もお互いの教室を行き来しながら親交を深めてきました。先日，体育の時間には，南山伝統の「よさこい」を教えてもらい，教室に帰ってからもうれしそうに踊っていました。

聖歌もたくさん覚えてきました。朝の会や帰りの会では，毎日元気いっぱいに，そしてとっても上手に歌っています。授業中は，自分の考えを書いたり，友達の考えを最後まで聞こうとしたりする力が少しずつ身についてきており，学び合いの学習も上手にできるようになってきました。なわとびも上手にとべるようになり，大きく成長してきた１年間でした。

１年２組も１組と同じように，「おいのりをたいせつにする子，はなしをしっかりきく子，ともだちとなかよくする子」を目指して頑張ってきました。

野上先生は，話をよく聞き，けじめをつけて行動できるような２年生，そして，いつも笑顔で楽しく過ごす南山っ子に育ってほしいと願っています。